

天頭堂大川鐵雄氏遺稿 銀座工夫人 勝間孝之助書留 目次

口絵 (国立歴史民俗博物館蔵写真)

甲の覆輪原母 (精鉄当四銭に使用された物)

乙の覆輪原母 (使用されなかった物)

口絵 天頭堂大川鐵雄氏自筆原稿の一部

緒言 (天頭堂大川鐵雄氏プロフィール含)

一. 始めに

二. 伊號 萬延度精鉄銭に関する一資料

三. 呂號 萬延度当四俯永錫母に関する一資料

四. 波號 萬延度俯永大様母に関する一資料

五. 仁號 文政度母に関する一資料

六. 保・邊號 萬延度精鉄銭の銭質に関する一資料

七. 登號 錫母に関する一資料

八. 智號 文政度離用通錫母に関する一資料

九. 利號 萬延度巨字に関する一資料

十. 奴號 萬延度の試し吹きに関する一資料

十一. 留號 萬延度の稟議銭に関する一資料

十二. 遠號 萬延度の試作品に関する一資料

十三. 和號 文政度の母に関する一資料

十四. 加號 安政度以降の真鍮当四銭に関する一資料

十五. 與號 萬延度の打製母に関する一資料

十六. 多號 慶応元年町触の記録

十七. 番外 異書に関する一資料

十八. まとめ 萬延度精鉄銭に関するまとめ

十九. 天頭堂大川鐵雄氏遺稿

二十. 参考資料一覽

天頭堂大川鐵雄氏遺稿 (一)

銀座工夫人 勝間孝之助書留

始めに

始めに、ここに紹介する資料は昭和十七年春、銀座に係わった関係者から出た物のようである。この資料は一括天頭堂大川鐵雄氏（以下天頭堂氏）の所蔵となった事が知られている。この資料は、貨幣第十四卷二号に天泉童後藤良則氏（以下後藤氏）が当四銭の錫母を出品された時の解説中に一部紹介されている。

又、貨幣誌第五十卷第五号耳口健士氏「古銭叢話」第二十三話 萬延小菅錢（巨字）の中で「昭和二十三年頃、国光泉会十三名、貫井青貨堂先師が講師で、寛永錢講習会の席上、あまり小菅錢に触れず川口鑄造説もあると、又、郡司勇夫氏（以下郡司氏）と「小菅錢はこの錢でなく、川口説で別の寛永通寶の天頭堂氏の藏品の中にある」と、「その拓本と国光泉会で編集した新寛永錢譜の最後に貼った。」とあるのも同じ資料の事を指している。この萬延度の精鉄錢の資料は台紙に貼られていた物が小川青寶樓氏の所に有り、この資料を後藤良則氏がコピーしていた。後藤氏の所持している資料のコピーを拝見する事になっていたが、そのままになってしまい今となっては確認する事が出来なくなったのは残念である。これら原資料については現在行方不明となっている。

小生の手許に有るのは、天頭堂氏が写し、解説を附した物である。解説は文語体で記されているが、口語体に直すよりもそのまま掲載した方が天頭堂氏の考え方が伝わるものと考え、使用されている旧字、異体字もそのまま掲載する事とした。

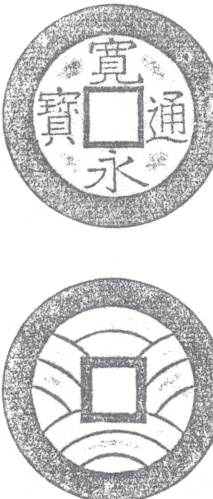

尚、この写しの中には意味不明な部分はそのままとした。この資料は伊号ノ多号及び番外に分かれ、解説をつけているが、内容に重複が見られる。これは、個々の包紙ごとに解説をつけた為である。天頭堂氏の解説と共に原資料を書き写し、拓本が添付されている「寛永錢集」がある。拓図は主に同書の物を載せた。

天頭堂氏遺稿（以下遺稿）に記された資料と寛永錢集に記された資料は共に原資料から写した資料であるが、記述資料に相違を見られない等、原資料との間に齟齬はなく正確と思われる。

次に、本書の題名である「銀座工夫人 勝間孝之助書留」について記しておきたい。

勝間氏は、明治五年二月より実施された戸籍法に伴い「勝間」姓から「佐久間」姓に改姓している。勝間氏は銀座人であったが、

既存の母（俯永）に覆輪を施した母をもって吹き立てを行っている。
 拓図乙。通用銭のある覆輪原母。

母直永	甲の覆輪 原母	乙の覆輪 原母
<p style="text-align: right;">銅</p> 		
<p>文久銭直永の母と深字の銅銭である。直永は彫母に最も近い形状を残しているところから深字と共に初期の物と見られる。</p>	<p>覆輪原母 萬延精緻銭俯永ノ原母ニシテ通 宝側ノ内輪ニ存スル微小ノ瑕ハ 其儘銅母ニ迄鑄寫サル 前葉全断但シ増幅ハ、真鍮質ニ テ行フ；原文のママ</p>	<p>覆輪原母 萬延鐵錢ノ為ノ試作品ニシテ此 ノ廣輪ノ方ハ採用セラレズ次の 分實用ニ供セラル 安政度母錢ヲ鑄浚ヒ磨キ上ゲ銅 環マ以テ外周ヲ増幅ス；原文の ママ</p>

伊號添付(1/2)